

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス よよぎ		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 2日 ~ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 10月 2日 ~ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 25日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（保育士・心理担当職員）の配置、個別対応	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り個別対応しています。 専門的視点で支援を行っています。 必要に応じて専門職による専門的支援を取り入れ、よりきめ細やかな療育を行っています。 	今後、さらにニーズに応じたプログラムの内容の充実を図り、よりよい支援に努めます。
2	活動プログラムの構築	<ul style="list-style-type: none"> 「SST」「認知機能強化トレーニング」に力を入れています。 季節の行事を意識した制作や外出等を行い、学童期に必要な経験を積み重ね、自己肯定感の向上に繋げています。 中学生以上の高学年は、社会性の向上を目指し、公共交通機関や公共交通施設の利用、買い物学習など外出の機会をより多く設けています。 	地域のイベントにも積極的に参加することで、地域を知る機会にしていきます。
3	高校卒業まで利用する児童が多い	<ul style="list-style-type: none"> 小学校高学年～中高生までの利用が6割を占めています。じっくり話を聞いてほしい児童も多く、コミュニケーションを重視した支援を取り入れています。 	今後、さらに子どもたちの話を受容し、共感し、心に寄り添った余暇を過ごせるようにします。またコミュニケーションスキル、社会性の向上を目指した支援に努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの狭さ	曜日によっては下校時間に差が生じ、遊びの空間と学習の空間が一緒になることもあります。	大多数の方を優先しながら、学習の部屋を移動するまたは机上でできる遊びに誘うなどの工夫で、限られた空間を有効的に利用してきます。
2	4階にある	身体的障がいがある児童の利用が難しい場合があります。	車いすは難しいですが、エレベーターに乗る歩行器等であれば対応していきます。